

高校1年生になるみなさんへ 高校準備講座のご案内

高校入試もあと一息。

すぐそこには楽しい高校生活が待っています。
いろいろなチャレンジをして、いろいろな経験をして、
全力で過ごしましょう。しかし、次なる進路に向けて、

どのように勉強していったら良いのか、
しっかりと把握しておくこともまた重要です。

この小冊子を読んで、入学前の高校準備を
完璧にできるようにしましょう！

目次

高校準備講座のご案内	3
3～4月の授業内容	4
高校1年生の学習の流れ	5
高校受験の先をイメージしてみましょう！	6
高校受験後の落とし穴とは？	7
落とし穴に落ちる前に・・・大学入試を知ろう！	12
まとめ：高校受験後の過ごし方のポイント	15

高校準備講座のご案内

早いものでもう2023年1月です。去年の4月にはじまった皆さんの受験生としての1年も早くも終盤を迎え、受験本番が目前に迫ってきました。気温もグッと下がり体調を崩しやすい中、健康な生活リズムを保って学習に励んでくれているだと思います。Freewill学習塾と最後まで駆け抜けて、納得のいく合格を勝ち取りましょう！

さて、1月末から2月末にかけて受験日程が目白押しです。そのため、教室の時間割状況に応じて、受験日以降の授業を受験日より前に振替をして実施することも可能です。振替日や教科については、個々の状況に応じて相談します。第一志望合格に向けて全力でサポートするので、がんばっていきましょう！

全力を尽くした高校受験が終わると、楽しい高校生活が待っています。部活や新しい仲間など、新しい環境での生活が始まります。中学校ではできなかった様々な経験をして、みなさんの可能性に満ちた将来を切り開いていってもらいたいと思っています。

充実した高校生活のためには、勉強面で高校への準備をしておくことも重要になってきます。高校受験の先にある目標は大学受験になりますが、実は大学入試に用いる学校成績の半分弱が高校1年で決定してしまいます。そのため、念な準備をして高校1年生を迎えることがとても重要になってくるのです。

というのも、以前配布した「高校受験虎の巻」にも記載したように、大学受験において学校成績が占める比重が多くなってきており、高校1年生になっても学習習慣を維持することが必須になるからです。そこで、3月の通常授業では、原則必修にて「高校準備講座」を受講してもらい、4月以降に高校で習う内容の先取りを行うことで、学習の空白を作らないようにします。

ここまで Freewill 学習塾を信頼してくてくれた感謝をこめて、高校の先取りの勉強に関して、「高校準備講座」(計10コマ)の授業を通常半額以下で受講可能です。受講曜日は個別にご相談をいたします。

さらに、4月以降は自動継続になりますが、高校進学に際しての負担を考慮し、春期講習の英語4コマ・数学4コマ分を無料で実施します(恵比寿校高校部でのご参加も可能です)。

なお4月からの授業では、英語・数学の週1コマずつが基本的な受講内容となります。4月以降の受講の有無、受講科目やコマ数についての相談がある場合、個別に詳しく相談をしますので、3月10日(金)までにその旨を伝えてください。何か不明点等ある場合は、気軽に教室まで質問してください！

3～4月の授業内容

①高校準備講座

日程	3月1日(水)～3月17日(金)
時間	これまでの通塾曜日を中心に、各々の予定に合わせて調整します
コマ数	英語・数学5コマずつ(計10コマ)
料金	【入学サポートキャンペーン】 通常の半額以下 にて受講可能!
内容	【英語】 5月中間試験の主要範囲である「第1文型～第5文型」及び「文の種類」の徹底的な予習をします。 【数学】 5月中間試験の数学1の主要範囲である「式の展開」及び「因数分解」の徹底的な予習をします。 ※必要に応じて中学校の知識の整理も行います

※高校準備講座は原則全員必修です。受講しない場合、コマ数を変更した場合のご相談は、**2月10日(金)まで**に保護者様からご連絡をください。

②春期講習

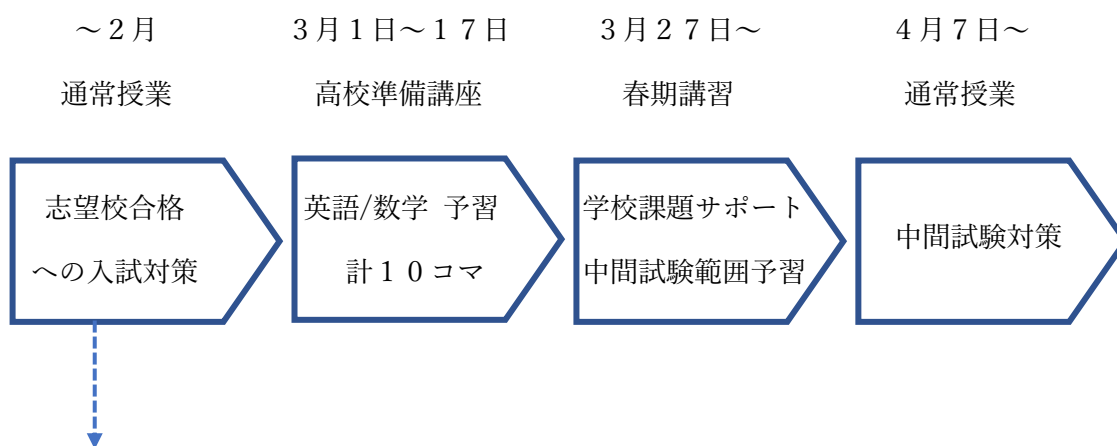
日程	3月22日(水)～4月5日(水)
時間	普段の講習と同様、講習受講確認書を提出してもらい、調整します。
コマ数	英語・数学4コマずつ(計8コマ) ※コマ数を追加することは可能です
料金	【入学サポートキャンペーン】4月以降自動継続する人は 無料 で受講可能!
内容	高校から出ている春休み宿題のサポートを行い、休み明けテストにむけて万全の対策をします

③高校部通常授業

4月7日から始まる通常授業では、英語1コマ・数学1コマが基本的な受講内容となりますが、学力状況や目標に応じてコマ数を相談することも可能です。

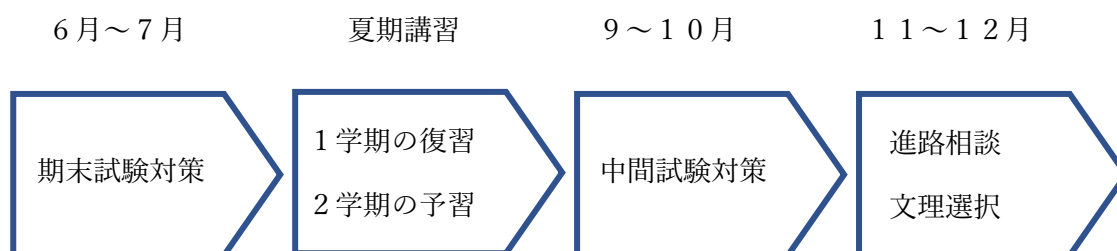
高校1年生の学習の流れ

高校準備～中間試験の流れ



※私立高校に単願推薦で合格した場合、2月の通常授業については、中学校の総復習やクラス分けテストの対策のための内容を行います。

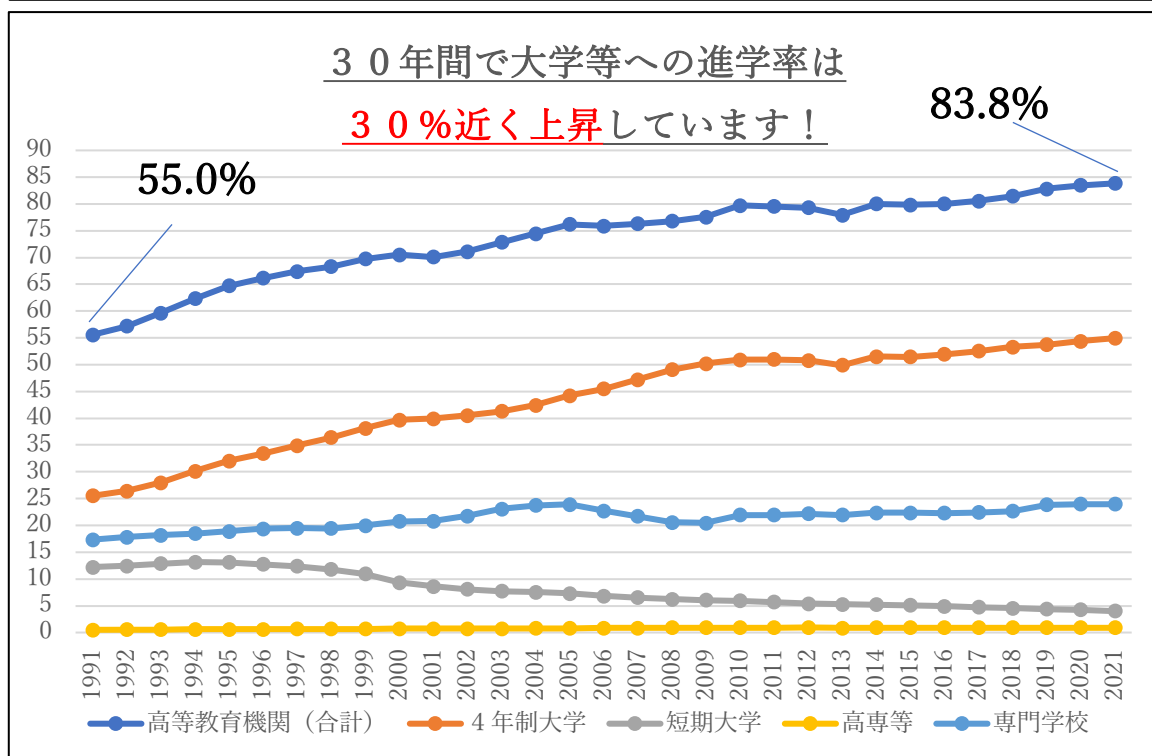
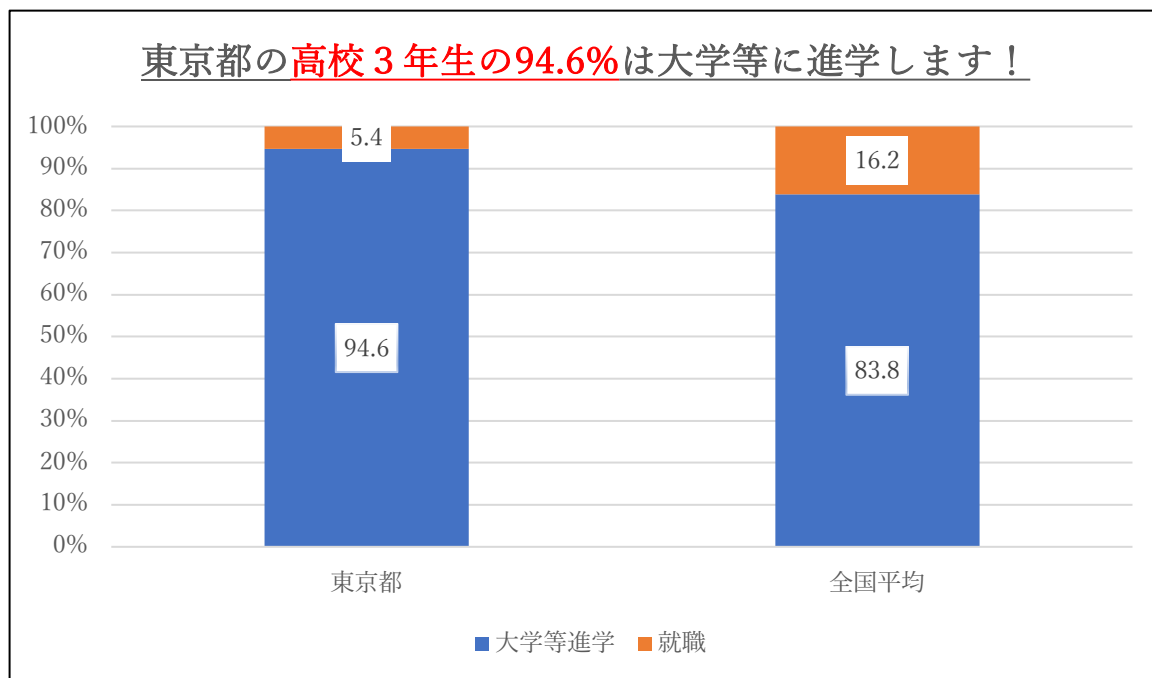
高校入学後半年の学習の流れ



※生徒さんの状況に応じて、6月の以降の流れは個別対応になります。何か不安なことがあれば気軽に相談して下さい！

高校受験の先をイメージしてみましょう！

さて、1～2月の高校受験の先には何が待っているでしょうか。イメージを沸かせるために、手始めに高校3年間の出口、つまり**高校の先の進路状況**を見てみましょう。まずは次の2つのグラフを見てみましょう。(いずれも文部科学省「学校基本調査」より作成)



前のグラフからわかるのは、東京都では、高校の出口として**就職という選択を選ぶ学生がほとんどいない**ということです。下のグラフは東京に限定せず全国のデータを用いていますが、ここからは「ここ**30年**の大学等への進学率は上昇し続け、現在は**8割以上の高校3年生が進学している**」と読み取れます。これらから、近年ほとんどの高校生にとって、「**高校の先の進学をどのように行うか**」が切実な問題になっているとわかります。

「また受験か」と思うかもしれませんが、実は大学受験は高校受験とは異なる意義をもっています。「**本当にやりたいこと**」を選び追求できるのは高校ではなく大学だからです。いま14歳・15歳の中学3年生には無限の可能性が開かれており、その可能性を追求できるかが決まるのが大学受験なのです。

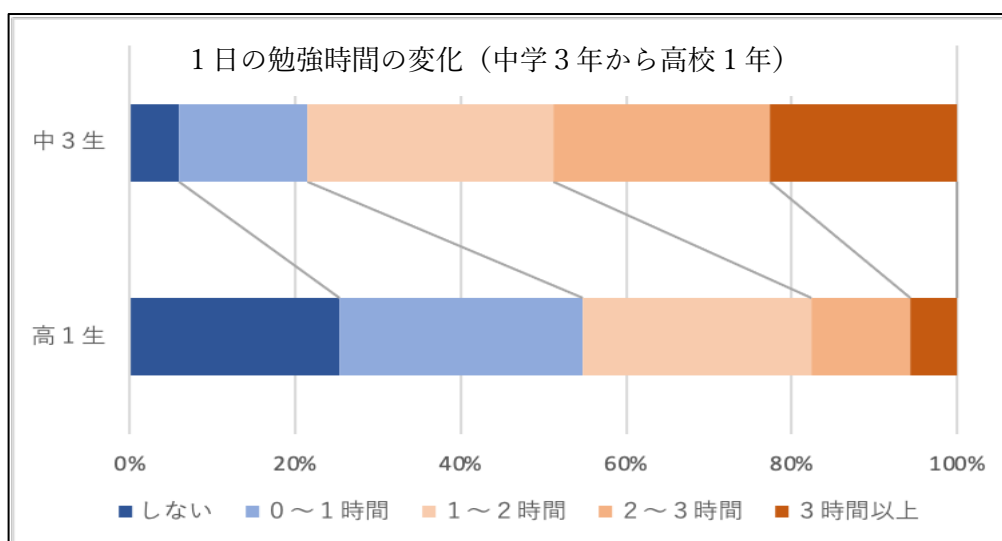
そのため、「**高校合格は通過点**」だと考え、今から高校の先をイメージし、これからも自分の可能性を追求して行ってほしいと思います。今勉強しているのは、高校入学のためではなく、高校の先の選択肢を最大にするためだと考えてほしいのです。

高校受験後の落とし穴とは？

このように、高校の先の進学のイメージを持って高校受験をしてもらいたいのですが、多くの受験生にはそれができません。「**高校合格がゴール**」だと考えてしまい、その結果どうなるでしょうか。高校受験自体に勢いが出なくなるのは当然のこと、高校受験後に学習を一切ストップしてしまう生徒が多いのです。「高校合格は通過点だ」という考え方からすると、このような状況は高校受験の成功とは呼べません。

学習習慣を失くしてしまう！？

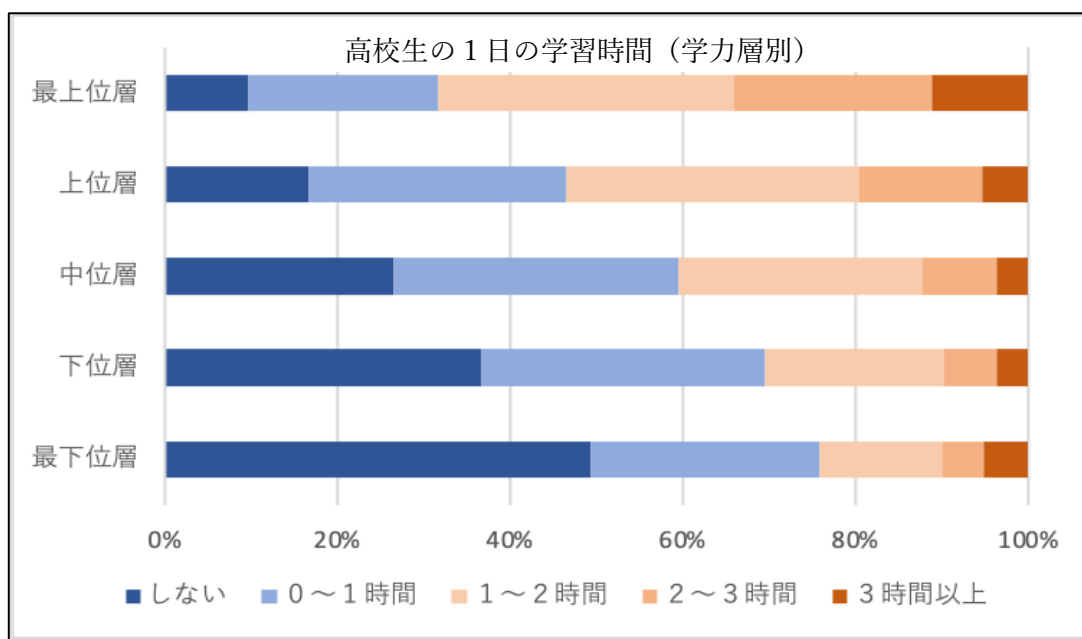
次のグラフを見てみましょう。



文部科学省「21世紀出生児縦断調査」（2018年）より

このグラフから分かることは、**中学3年生のころと比べると高校1年生は学習量が激減し**、半数以上の高校生が「1時間未満」の勉強量となるということです。これは「**高校合格がゴール**」と捉えてしまっていることが原因です。

また次のグラフもご覧ください。



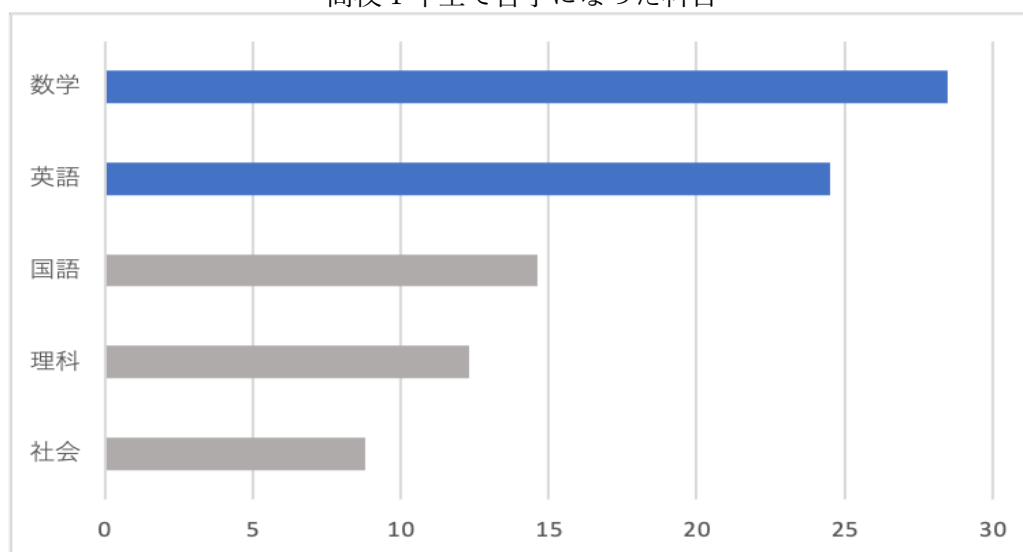
文部科学省「21世紀出生児縦断調査」（2018年）より

このグラフから分かることは、特に「**成績中位層以下**」では、**より学習量が少なくなる**ということです。なんとか高校受験がおわったものの、そこから学習量を激減させてしまうということですね。

苦手科目が増える！？

このように、「**高校合格がゴール**」と考えてしまい、その結果高校受験後に学習を一切ストップしてしまうと、どうなるでしょうか。簡単に想像がつくと思いますが、苦手科目が増えます。特に英語や数学といった主要科目は高校に入ると授業スピードが速くなるので、上記のような学習状況ですと、成績が落ちてしまうのは目に見えています。実際に次のグラフにあるように、**高校1年生は英語・数学が苦手になりやすい傾向**にあります。

高校1年生で苦手になった科目



ベネッセ教育サイトより

高校では中学より学ぶ内容が増えるため、一旦苦手になると、取り返すのに大変苦労します。このような状況になってしまうと、その先の進路の選択肢が減ってしまうのです。

苦手科目が増える大きな要因となる新学習指導要領

このように、一般的に高校1年生の学習量は下がる傾向にあります。加えて、2022年度から高校に導入された**新学習指導要領の影響**のもとで、学校の勉強の難易度が上がり、**内申を取るためにより早いタイミングから、かつ継続的な努力が必要**になりました。

主に以下のような変化が生じることとなります。

教科	新学習指導要領での主な変更点
数学	<p>①数学 I に「仮説検定」、数学 A に「期待値」、数学 B に「確率分布と統計的な推測」が導入されるなど、データ分析の基礎知識を必須項目として学習しなければならない。</p> <p>②従来は廃止されていた数学 C が復活し、特に国公立受験生では文系であっても共通テストにおいて数学 C が受験必須になる。</p>
英語	<p>①暗記が必要な英単語数は、従来の3000語から、4000～5000語に急増した。</p> <p>②「授業は英語で行う」ことを基本とする」と学習指導要領に記載されている。</p>

教科	新学習指導要領での主な変更点
その他	<p>学習指導要領に「<u>ディベートやディスカッション</u>を通じて意見や主張などを（中略）伝え合う」とあったり、「<u>知識を相互に関連付け</u>てより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、「<u>問題を見いだして解決策</u>を考えたり、思いや考えを基に想像したりする」とあるように、「知識を活用させる」ことが求められる。「<u>丸暗記</u>」だけの学習が通用しなくなる。</p>

以上をご覧いただければわかるように、**学習量が増加することに加え、学習を通じて得た知識を活用することが求められます。**多くのことが求められるこのような状況のもとでは、日々の地道な学習の重要性がさらに増します。高校受験後に学習量を一気に減らし学習習慣を失ってしまうと、勉強が苦手になり取り返しがつかなくなる可能性が高まっています。

新しいことが目白押しの高校生活

学習以外の面でも大きな変化があるのが高校生活です。小学校・中学校といったある種連続した環境から大きく離れ、慣れない環境に飛び込んでいくことになります。学習以外の面での変化もイメージできるよう、ここでは2つ例を挙げてみます。

①様々な人間関係がうまれます！

中学校はおおよそ3～4校の小学校からしか生徒が集まってきません。しかし高校になると、数十の中学校から生徒が集まってくることになります。**暮らしてきた地域環境・家庭環境が異なる同級生**に囲まれることになります。これまで「小さい頃から見知って気心の知れた」仲間と過ごしてきた新高校1年生は、「**全く異なる環境で暮らしてきた**」新しい同級生と人間関係を結んでいかなければなりません。新しい経験の喜びもあれば、苦しさもあることかと思えます。

②部活も大きく変わります！

「小さい頃から見知っている」仲間から離れていくことは、部活にも当てはまります。中学校の部活だと、小学校のころから知り合いだった上級生がいるなどの理由から、上下関係があまり厳しくなく、発育段階に合わせ、部活の指導も一般的に穏やかです。

しかし高校に入ると、入部してくる多様な生徒にまとまりをもたせるために、**上下関係が比較的厳格になり、成熟した高校生への指導は厳しくなります。**

このように、学習以外にも様々な変化が起こります。これらを何も知らずに高校に入ってしまうと、**最初**はついていくのがやっとなってしまうかもしれません。その影響は学習にも表れ、部活や人間関係によって学習が追いやられてしまうかもしれません。

さてここまでいかがでしたでしょうか。「確かに高校になったら今より勉強に身が入らなくなりそうだけど、それは仕方のないことではないか？」とも思うかもしれません。その通りだと思います。現在の受験期のような学習量を求めることは塾としてはしませんし、新しい人間関係や部活も精一杯楽しんで経験してもらいたいと思っています。

しかし、何も想定せず、準備せずに高校に入ってしまうと、自然に学力が落ちていくことはたしかです。新学習指導要領の下ではなおさらです。言い換えると、**上で見たような傾向を何も知らず、「高校合格がゴール」と考えていると、誰も学習習慣を無くしてしまうのです。**

しかしここまで読んでいただいた方は、この将来の危険性をすでに知っています。そうであれば、この事態を避けるために、考え方を考えることができます。つまり、「**高校合格がゴール**」ではなく、「**高校合格は通過点**」と考えることが重要であるとわかっていただけたかとおもいます。高校に合格することは当然のこととして、その先の高校生活の成功までを含めて、高校受験の成功だと考えるようにしましょう。

Freewill 学習塾では、そのように考えるためには、高校受験直後から少し視線を伸ばし、大学受験の制度について知ることが重要だと考えます。そこで、次に大学受験の制度についてみてみることにしましょう。



落とし穴に落ちる前に・・・大学入試を知ろう！

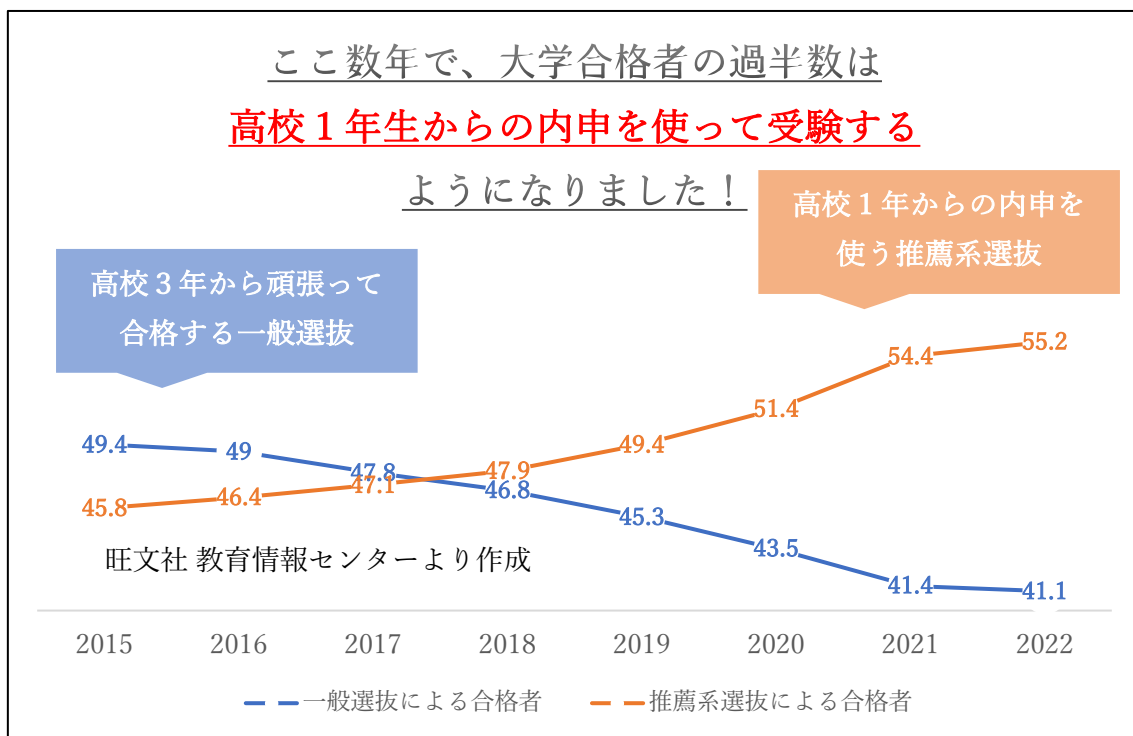
かつて、「高校合格がゴール」が通用した時代があった

実は、20～30年前であれば、「高校合格がゴール」と考え、高校1～2年は次なる進路を考えずに過ごしていてもよかったです。高校3年生から気持ちを入れ替え、予備校に通い、高校3年の1～2月の入試での戦いに勝ち、大学に入学することができたからです。

しかし、近年は状況が大きく変わり、高校3年生からの逆転合格が難しくなってきました。そのため中学3年生の頃から、「高校合格は通過点だ」と考えておくことが必要になっているのです。なぜでしょうか？

現在は大学入試の主流が大きく変化している！

近年の大きな変化を把握するため、まずは次のグラフを見てみてください。



このグラフからは、大学入試改革が進んできたここ数年で、「大学入試の主流が、一般選抜から推薦系選抜に移っていった」ということがわかります。ただ「一般選抜」「推薦系選抜」といった用語がいきなり出てきてもわかりにくいですね。以下で説明します。

大学入試制度の概要

大学入試には大きく分けて**2つの入試形式**があります。

①一般選抜

1つ目は、1～3月の試験日にペーパーテストを受験して、その点数で一発勝負をする入試形式です。高校入試における「一般入試」と同じような入試形式です。

②推薦系選抜

2つ目は、9～12月にかけて行う入試で、主に学校内申などを使って評価がされます。細かくいうと、(1) 学校推薦型選抜 (2) 総合型選抜の2つに分かれ、いずれも高校入試の「推薦入試」のように考えられがちですが、大きな違いがあります。それは、

- ・入試で用いる「学校内申」は高校1年生～高校3年生の1学期、の平均内申である
- ・内申のほか、詳細な志望理由書や小論文などの提出が求められる

といった点です。

ここで押さえておいていただきたいのは、「**推薦系選抜という選択肢を得るためには、高校1年生から内申をとっておく必要がある**」という点です。

現在の主流は、高1からの内申を使う推薦系選抜です！

先ほども述べたように、一昔前の主流の入試形式は一般選抜(当時の「一般入試」)でした。高校の内申に関係なく、試験日に得点を取れば合格可能なので、「**高校3年生から予備校に通って、逆転合格**」というスタイルの受験勉強が**かつての主流**でした。

しかし、近年の大学入試改革に伴い、このスタイルに大きな変動が生じています。一言で言えば、「**現在の主流の入試形式は推薦系選抜になった**」ということです。

さて上記のように推薦系選抜では、評価に用いられるのは「高校1年生から高校3年生の内申の平均」です。つまり、「**高校3年生から頑張る**」という**選択肢をとった場合、大学入試の選択肢の半分以上を失ってしまうこと**になります。

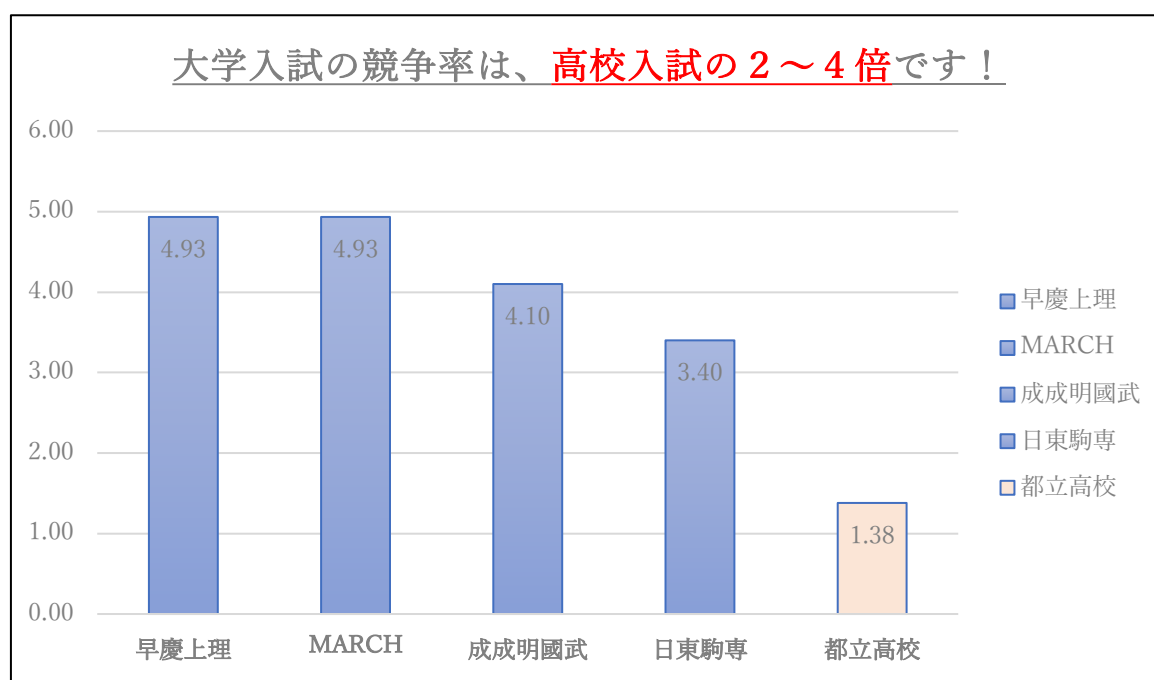
さて、内申は中学校と同じく、定期試験の点数によって大部分が決定されます。高校受験が終わったおよそ3ヶ月後の5月には1学期中間試験が控えていることを考えると、高校受験を終わった後に、ある程度の学習量を維持すべきだとわかります。

内申がとれなかったら、一般選抜で厳しい戦いが待っています

では、もし内申をとれず推薦系選抜の選択肢を逃してしまうと、どうなるでしょうか。一言で言えば、「高校入試より競争率の大幅に高い、難しい一般入試を受けなければいけない」状況になります。

まず「高校入試より競争率が高い」という点については、以下のグラフをご覧ください。

※主要な大学な略称については以下を参照



河合塾 Kei-Net および進学研究会資料より作成

早慶上理 : 早稲田大学、慶應大学、上智大学、東京理科大学の総称

MARCH : 明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学の総称

成成明國武 : 成城大学、成蹊大学、明治学院大学、國學院大学、武蔵大学の総称

日東駒専 : 日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学の総称

このグラフをみると、東京都の都立高校の入試倍率が1.38倍であるのに対し、日東駒専以上大学の入試倍率は、3～5倍ほどと、**高校入試の2～4倍**であることがわかります。

東京都の高校入試が主に東京都在住のライバルたちとの戦いであるのに対し、大学入試は全国のライバルたちとの戦いであることを考えると、この数字も頷けるものなのではないでしょうか。



まとめ：高校受験後の過ごし方のポイント

さて、ここまで以下のことを述べてきました。

- ①高校生のほとんどが大学等に進学する。つまり「高校合格は通過点」にすぎない。
- ②しかし「高校合格がゴール」と考えていると、多くの生徒が受験後に学習をストップしてしまう
- ③学習をストップすると、進学の実選択肢の半数以上を失う

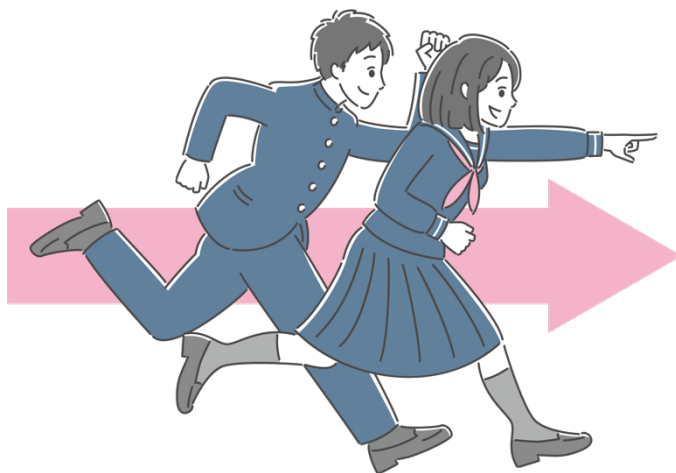
ここからわかることはなんでしょうか。非常にシンプルだと思います。それは、

- ・「高校合格がゴール」ではなく「高校合格は通過点」だと考えること
- ・高校の先の進路や高校生活までを今のうちにイメージしておくこと
- ・その結果、高校受験後も学習量のある程度維持しつづけること

です。当たり前のように聞こえることですが、この当たり前を実践するのが難しいのです。長年中学生から高校生を指導してきた我々としては、そして近年の大学入試改革を目の当たりにしてきた我々としては、なんとかこの当たり前を実践してほしいと強く願っています。

「偏差値の高い大学に行ってほしい」と思っているわけではありません。第二部の冒頭で述べたように、未来に無限の可能性を秘めている中学3生が、自分の選び取ることのできる選択肢を最大化するために必要なことをしてほしいと思っています。

一人一人の受験生が、高校合格で足を止めることなく、その先までイメージをふくらませ、周到な準備をした上で高校に入学してくれることを強く願っています！





■